

●世帯数 ……………1,325戸
●人口 ……………3,751人
男性／1,853人 女性／1,898人
令和8年7月31日現在

発行／出東コミュニティセンター企画広報部 お問い合わせ／TEL 0853-62-5033 FAX 0853-62-5039



夕方6時の開場とともに、PTAや地区社協ほか地域団体による、たこ焼き、焼きそば、唐揚げ、かき氷などの屋台が並び、どこのブースも大賑わい。トラック荷台で叩く伝統のたなばた太鼓は今年も大人気で、「よい、よいー!」という大きな掛け声が響き渡り、会場の雰囲気を一気に盛り上げていました。

旧暦のたなばたの時期に合わせて開催される「出東こどもたなばた会」。厳しい暑さとなった8月1日(土)、大人から子どもまで約600人もの来場者で、コミセンは元氣いっぱいの声と笑顔であふれました。地域の皆さんの協力のもと、夏の思い出づくりにぴったりの一日となりました。

出東
ことば
たなばた会



午後7時から、毎年恒例のお化け屋敷が2部構成でオープン。昨年はあまりの怖さに泣き出す子どもが続出したことから、今年は低学年以下向けの「ちよこし怖いよ」と、高学年向けの「ちよいまし怖いよ」に分けて実施。暗い迷路や工夫された演出に、子どもたちの悲鳴と笑い声が入り混じり、どちらも長蛇の列ができるほど大盛況でした。



集会室では、「トランプ対決」最強王決定戦が行われ、子どもたちが真剣な表情で勝負に挑んでいました。そのほか、射的、青少年育成協議会による短冊飾りづくり、島大生による風鈴づくりなど、子どもたちが夢中になれる企画が満載。多くの中学生ボランティアも参加し、屋台や各ブースで頼もしい姿を見せてくれました。

最後は、子どもたちが手ばたん花火を楽しみ、夜空に小さな光が弾ける中でたなばた会は締めくくられました。「子どもたちの笑顔を見ると暑さも吹き飛び、来年はもっと盛り上げたい」とスタッフの方が話すように、多くの地域団体が力を合わせて運営された出東こどもたなばた会。コミセン自主企画事業として地域づくり部・子育て部が主催し、出東地区自治協会、青少年育成協議会、地区社会福祉協議会が共催。出東小学校PTA、出東郵便局、出東mama塾など多くの団体が協力し、出東の夏の風物詩として定着しています。



親子(家族)ではなしあってみよう!!

親子(家族)ではなしあってみよう!!
 ~「ちがいのちがい」人権 **○×**クイズ~
 みなさん

ルール 「あってもよいちがい」は○、「ない方がよいちがい」は×と考えるす

男の子は「強く」とって育てられ、女の子は「やさしく」とって育てられる。



ヒンズー教徒のY君は牛肉を食べないが、イスラム教徒のZ君は豚肉を食べない。



親子(家族)ではなしあって
みてくださいね。



みなさんは「あってもよいちがい」と思われますか？
(○)、「ないほうがよいちがい」だと思われますか？(×)

皆さんのご家庭、地域、職場で人権について考えるきっかけとして活用していただき、多くの皆さんの「人権への気づき」へつながり、一人ひとりが尊重される社会の「築き」につながっていくことを心から願っています。

6月
6日

土

安心して環境にやさしい 除草剤を作ってみよう



自主企画事業/環境部



暮らしに役立つエコ体験+花壇の花植え活動が行われ、地域の方が育てたマリーゴールドなどの花の苗をコミセン玄関前に17人で植えました。その後、館内に移動して除草剤づくりを体験。三島部長の指導で、塩、水、穀物酢で作る簡単で環境負荷の少ない除草剤を全員が1リットルずつ作りました。

参加者は庭の手入れの悩みを共有したり、情報交換をしたりと和やかに交流しながら環境美化とエコについて学んでいました。



命をつなぐ 救急処置体験講習会開催

出東コミュニティセンター専門部研修

毎年恒例の事業として、心肺蘇生術とAED使用方法の講習会がコミセンで行われ、日本赤十字社島根県支部の松谷さんを講師に、参加者27人が専用の人形を使った心肺蘇生(胸骨圧迫)の仕方を体験しました。

心肺停止の人を前にした時、一人で処置するのではなく周囲の人たちと協力・分担して対応することが重要で、AEDの講習では、使用に躊躇する必要はなくガイドに従って簡単に使用できることを、デモ器械を使って確認しました。



毎回参加している女性は「救急車が到着するまでAEDと胸骨圧迫を交互に処置し続けることや、周りの人の協力が不可欠だと再確認した」と話していました。

6月
26日

金

いにしへの歴史を持つ斐川に誇りを 歴史に学ぶ講演会

自主企画事業/高齢者福祉部

歴史家で荒神谷博物館館長の藤岡大拙氏の講演会がコミセンで開催され、35人の大拙さんファンが軽妙でユーモアあふれる話に耳を傾けました。

前半は、弥生時代からいにしへの歴史を持ちつつ、現在では最先端の企業立地で栄える斐川町に、矜持をもって欲しいとのメッセージから、出雲国風土記に載る斐川の地名について分かりやすく紹介。後半は斐伊川を舞台に倭建命が出雲建を謀殺した古事記のエピソードに触れ、出雲王がこの近くに居

6月
10日

水

舞い上げれ！ みんなで一緒に連風あげ

出東コミュニティセンター



5月26日に地域のボランティアの皆さんが作った連風を、こども園の年長児のみんなと一緒にコミセンの広場であげる催しが行われました。

当日は風が弱く、連風がうまくあがるか心配した中、園児のみんなが「がんばれー！」と元気いっぱいに応援し、連風は少しずつ空高く舞い上がりました。風のない時には、「ふーっ」と息を吹きかけて。子どもたちの応援が連風を空へと運んでくれたようでした。

地域のボランティアが心を込めて作った連風を通して、世代を超えた温かい交流のひとつに、園児も参加した大人も笑みがこぼれる温かい時間となったようです。

6月
16日

火

リサイクル資源のしくみを学ぶ —環境視察研修—



自主企画事業/環境部



2025年に環境省「体験の機会の場」認定制度で、県内初の認定企業となった三光(株)江島工場を訪れ、山陰最大級の総合廃棄物処理場を見学しました。

当日は、環境部、環境保全連合会出東支部、環境に関心のある人たち26人が参加し、施設内で概要説明を受けた後、ごみ処理やリサイクル、SDGsなどについて学びました。

その後、実際に工場内で、廃プラスチック、紙くず、繊維くずを圧縮した固形燃料製造の様子や焼却プラントとその廃熱を利用したエビの養殖の施設を見学し、参加した女性は「大きな工場で見応えがあった。説明がわかりやすく楽しんで学べた」と話していました。その後、参加者は由志園を訪れ、新緑とミストの美しさに癒やされながら、コーヒーで一服するなど楽しんでいました。

住していたことの証だとする話を紹介。参加者はメモを取りながら興味深く聞き入っていました。

奇しくも当日は藤岡さん94歳の誕生日と重なり、スタッフから花束を贈られ祝福を受ける場面もありました。



おじゃまします

出東のお仕事拝見!

Vol.16

枯れないお花で 暮らしに彩りを

アトリエを主催する
横野沙織さん▶



長い期間楽しめることも魅力のプリザーブドフラワーを使ったアレンジやミニチュア作品を制作するアトリエmitsubachi-365-(代表・横野沙織さん)。

活動のきっかけは、プリザーブドフラワーのワークショップへの参加。花の魅力に惹かれ、4~5年前から自身でもワークショップを開催するようになり、オーダー制作などを通しネットショップを開店した。

作品は、リースやガラスドーム、フレームアレンジなどのほか、花とミニ

チュアを組み合わせた小さな世界も魅力のひとつ。最近では仏壇用のアレンジメントの人気も高まっているそう。

また、出東在住の藤原さんと2人で運営する「Tunagu~花と雑貨とリユース服~」では、毎月4日間、沖洲の店頭で作品を販売。花や雑貨、リユース服などとの出会いを楽しめる場所になっている。

一人ひとりの暮らしに寄り添う花を届けるmitsubachi-365-。小さな花の世界から、日々の暮らしに彩りを添えている。作品などはInstagramでチェックを。



INFORMATION

mitsubachi-365-

●斐川町坂田2351(淀下自治会)

●アトリエの様子や作品などはInstagramで



6月27日 土 宍道湖でしじみ取り体験

出東mama塾

親子による「しじみとり体験」が出雲空港なぎさ公園で行われ、45人が参加しました。当日は台風の影響で天気心配されたものの大きな崩れはなく、参加した親子は宍道湖の自然に親しみながら、しじみを採っていました。子どもたちは夢中になってしじみを探し「たくさん採

れた！」と笑顔を見せる姿が印象的でした。地域の自然の豊かさや魅力を再発見し、親子で楽しい夏の思い出作りの場となっていました。



8月7日 金 初めてのヨガと アクセ作りに大満足！

自主企画事業/企画広報部

東京在住で出東地区出身のヨガインストラクター別府菜穂さんと、中洲地区の尾原麻美さんの同級生2人が講師を務め、しじみのご縁ストラップ作りとヨガの体験が行われ、小学生8人と保護者3人が参加しました。

簡単な自己紹介の後、早速ヨガのポーズを体験、最初は戸惑いながらもみんな楽しく真剣に取り組んでいました。その後、しじみに関するクイズをした後、お気に入りの貝殻や布、ストラップを選び、しじみのご縁ストラップ作りに挑戦。貝殻に布を張り付ける工程では苦戦している姿もありましたが、大人たちの手助けを借り、全員おしゃれなストラップを完成することができました。参加した子どもたちは、「もう一度ヨガをやりたい」「かわいいストラップができてうれしかった」と満足そうに話していました。



8月18日 火 いろんな体験が詰まった一日 ~夏休み子ども体験活動~

出東地区社会福祉協議会・出東地区青少年育成協議会 協力：出東mama塾

小学3年生から6年生までの15人が参加し「夏休み子ども体験活動」が行われました(協力：出東mama塾)。コミセンで地域の人たちに宿題を教してもらったほか、陶芸クラブによる「土鈴」作りを体験。その後、まめなが一番館へ会場を移し、おやつでサイエンスを主宰する園山さんとポップコーンと三層ジュースを作り、「三層ジュースは本当に色が分かれてびっくりした」と驚いた様子の子どもたち。休憩の後は新築した斐川行政センターを見学し、さまざまな仕事について興味深く学んでいました。どの体験も全力で取り組む子どもたちの姿は、思い出と学びの1コマになったと思います。



8月22日 土 8月23日 日 不便なことも楽しい！楽しみながら防災体験 コミセンお庭でキャンプ！

自主企画事業/子育て部

夏休みの定番となった「コミセンお庭でキャンプ」が今年も開催され、親子連れなど26人が参加し、キャンプの楽しさだけでなく、防災に役立つ学びや体験を行いました。平田高校生が企画・準備した竹を使ったそうめん流しでは、流れてくるそうめんやミニトマトを夢中になってすくっていました。また竹筒やポリ袋を使った炊飯にも挑戦し、災害時にも役立つご飯の炊き方を楽しみながら体験しました。また、暑さを考慮してテントは集会室に設営し、避難所でのテント生活を体験する機会にもなりました。参加した児童は「家ででの生活と違って、ごはん食べるのも大変だったけど、みんなと一緒にキャンプができて最高だった」と笑顔で話していました。



防災を学ぼう!! Vol.1

「自分は大丈夫はダメ!!」安全性バイアスとは

心理の仕組みは脳の防衛機能

「自分は安全だ」「大したことは起きないだろう」と無意識に思い込み、リスクや異常事態を軽視してしまう心理的な偏りを、「安全性バイアス」または「正常性バイアス」などと呼びます。

この心理の仕組みは、脳は日常的に起こる小さな異変や刺激にいちいち過敏に反応していると、精神的なストレスや疲労でパンクしてしまうため、脳は、多少の異常事態でも「いつも通りの日常(正常な範囲)」として処理しようとしてしまう働きによるものです。しかし非常時にはこの機能が悪い方向に働いてしまいます。

災害時や非常時には、火災報知器が鳴っても「どうせ点検が押し間違えだろう」と判断して避難しなかったり、豪雨や津波の警報が出て「ここは今まで大丈夫だったから関係ない」「まだ大丈夫」と思い込み、逃げ遅れの原因になります。

また「自分は安全だ」という思い込み(正常性バイアス)に加えて、「周りの人も逃げていないから大丈夫(同調バイアス)」という心理が重なると、集団全体で逃げ遅れるリスクが跳ね上がります。

ポイントは「非常時に判断しようとしない」こと！

- ① 行動をルール化(自動化)しておく
「警報が出たら考える前に逃げる」「非常ベルが鳴ったらすぐ外に出る」といったルールを事前に決めておきます。
- ② 「空振り」を恐れない
「避難したけど何も起きなかった」を「恥ずかしいこと」ではなく「確認できてよかった」と捉える意識が大切です。
- ③ 率先避難者になる
周りの様子を窺うのではなく、自分が真っ先に逃げることで、周囲の同調バイアスを打ち消すことができます。



